

オールジャパンの努力が実り2020年の東京五輪開催が決まった。招致成功の理由は最終プレゼンにあると言われ、滝川クリステルが「お・も・て・な・し」とニコニコしながらお辞儀するポーズが話題となった。なるほど「おもてなし」というのは日本のサービス精神の根幹を成すものではあるが、現在のところ日本を訪れる外国人旅行者は政府目標の1000万人を下回る約835万人で世界33位という体たらくである。これは香港や韓国を下回り、トップのフランスの1/10というからお話にならない。

それがいきなり、ホテル、レストランなどサービス業だけで7600億円の以上の経済効果が見込まれる五輪開催が決定し、経済界はすでに“年間2000万人以上！”などと外国人旅行者大幅増を当て込み鼻息が荒い。だが本当にこれが「おもてなし」の精神なのだろうか。

かつて明治の初めに来日し、日本中を訪ねた英女性旅行家イザベラ・バードなどの外国人は、貧しいながらも押しなべて愛想の良い人々の礼儀正しさと、代価を求めない親切に驚いた。「飲んだのが水だから金は要らないという茶店、猛暑の中1時間もウチワで扇いでくれながら礼を受け取らない女たち。世界中で日本ほど婦人が安全に旅行出来る国はない。」と彼女は感激している。また現在でも外国人旅行者による評価は概ね良好である。聖書には

「兄弟愛をいつも持っていなさい。旅人をもてなすことを忘れてはいけません。」

こうして、ある人々は御使いたちを、それとは知らずにもてなしました。」

ヘブル人への手紙 13章 1-2節

とある。旅人をもてなすというのは決して容易ではない。どこの馬の骨とも分からぬ旅人は、ハッキリ言って助けたところで利益のない存在だからだ。従ってここで言う旅人は自分にとって関係のない全ての人を指すと言っていい。キリストは正に自分にとって何の利害もない“旅人”のために十字架に架かられたのだ。そして「キリストを信じる」というのは、見知らぬ人を、神を愛するように愛することである。日本人が神の愛を信じ、単なる「か・ね・も・う・け」とならぬよう祈る。

2013-10-3

